

裸であるとは満たされること

ベレーシート

「裸であるとは満たされること」私がなぜそう思ったのかを、お伝えします。

【創世記2章25節】

そのとき、人とその妻は、ふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

ここでの

「裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった」このことばの意味をミドウラーシュします。

裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

1. ここでの裸は

עָרוֹם (アーローム) 【形容詞】裸の、むき出しの

עִירָם (エーローム) 【名詞】裸

動詞は עוֹרָה (ウール) 裸にされる、覆いが取り払われる

エーローム

- だれも虐げず、質物を返し、物をかすめ取らず、飢えている者に自分の食物を与え、裸の者に衣服を着せ (エゼキエル 18:7)
- あなたは飢え渴き、裸となり、あらゆるものに欠乏し、主があなたに差し向ける敵に仕えることになる。主はあなたの首に鉄のくびきをはめ、ついにはあなたを根絶やしにされる。 (申28:48)
- 裸であるとは、衣服がなく覆いのないむき出しの状態です。そこから裸は、衣服がないだけでなく、すべてを失う、何も持っていない、生きる上でのあらゆる欠乏を表すために用いられます。

2. 恥ずかしいは

בוֹשׁ

(ボーシュ)

【動詞】 恥をかく、恥じをみる、(水源が)枯れる

בֹּשֶׁת

(ボーシェット)

【名詞】 恥

ボーシュ

旧約聖書では

- ・ 民はモーセが山から一向に下りて来ようとし^{ない}のを見て、アロンのもとに集まり彼に言った。「さあ、われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から導き上った、あのモーセという者がどうなったのか、分からないから。」 (出32:1)

一向に下りて来ようとし^{ない} ⇒ 手間取る 【新改訳3】

- このあと、イスラエルの民は金の子牛(偶像)を造ります。

さらに

- ・偶像を造る者はみな、空しい。彼らが慕うものは何の役にも立たない。それら自身が彼らの証人だ。見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。 (イザヤ 44:9)
 - ・あなたに私たちの先祖は信頼しました。彼らは信頼しあなたは彼らを助け出されました。
 - ・あなたに叫び彼らは助け出されました。あなたに信頼し彼らは恥を見ませんでした。
- (詩篇22:4,5)

恥を見ませんでした ⇒ 裏切られたことはない【新共同訳】

- **ポーシュ**はもともとが「水源が枯れる」の意味で、いのちの源泉が失われることを表しています。いのちの源泉を失った民は偶像を造りますが、偶像は何の役にも立ちません。しかし、主に信頼した民は恥を見ない、主に裏切られることはないのです。

新約聖書では

・この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。 (ローマ 5:5)

・聖書にこう書いてあるからです。「見よ、わたしはシオンに、選ばれた石、尊い要石を据える。この方に信頼する者は決して失望させられることがない。」 (Iペテロ 2:6)

● **ポーシュ**は、新約聖書では「失望する」、「失望に終わる」と訳されます。

➡ **ポーシュ** と **失望する** は同義です。

これらのことから

「裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。」

このことばの意味を

「ふたりは何も持っていないが、満ち足りていた。」

と私は捉えました。

- 「何も持っていないのに満ち足りていた」それは、いのちの源泉があったからです。いのちの源泉である「いのちの息(霊)」が与えられていたからです。神である主によって守られ、満たされていたのです。

ところが

- 創世記3章で、罪が入ってきます。サタンが人の魂を足がかりとして人を支配してしまいます。そのため、いのちの源泉である霊が機能不全に陥ります。神との交わりが絶たれてしまいました。

目が開かれ裸であることを知った彼らは腰の覆いを造ります。さらに主の臨在される音を聞いて、善悪の知識の木に身を隠します。その理由をアダムが次のように話します。

- ・彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」
(創世記 3 : 10)

「恐れて身を隠した」と言っています。罪に落ちるまでふたりに恐れはありませんでした。主に守られていることを意識していたかどうかは分かりませんが、ふたりは裸であっても恐れることはなかったのです。

そのため ➡ **ポーシュ** と **恐れる** は同義です。

他にも

- ・それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ、わたしのしもべたちは食べる。しかし、おまえたちは飢える。見よ、わたしのしもべたちは飲む。しかし、おまえたちは渴く。見よ、わたしのしもべたちは喜ぶ。しかし、おまえたちは恥を見る。」 (イザヤ 65:13)

※恥を見る→**ボーシュ**

ここで対比されているのは

食べる ⇔ 飢える

飲む ⇔ 渴く

喜ぶ ⇔ 恥を見る

- 「喜ぶ」の反対語は「悲しむ」です。喜ぶが「望みが叶い満足する状態」だとすると、反対語の**ボーシュ**は「望みを失い落胆する状態」を表します。

そのため ➡ **ボーシュ** と **落胆し悲しむ** は同義です。

ボーシュは次のことを表すことばです



罪に堕ちる以前のふたりには、これらのボーシュはありませんでした。

3. ボーシュ以外の恥

「恥」と訳されるボーシュ以外の原語を3つ取り上げます。

(1)

הַרְפָּה (ヘルパー) 侮辱、恥辱、恥、さげすみ、あざけり

①永久に死をのみ込まれる。神である主は、すべての顔から涙をぬぐい取り、全地の上からご自分の民の**恥辱**を取り除かれる。主がそう語られたのだ。 (イザヤ 25:8)

恥辱 ⇒ 恥【新共同訳】、はずかしめ【口語訳】、そしり【新改訳3】

②あなたの**裸**はあらわにされ、**恥**もさらされる。わたしは復讐をする。だれ一人容赦しない。 (イザヤ 47:3)

※裸は、さきほどから取りあげている裸**エーローム**ではありません。

後で出てくるエルヴァーです

(2)

בָּזָה

(バーザー) 侮る 軽蔑する さげすむ

①信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず、十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。 (ヘブル12:2)

辱め ⇒ 恥【新共同訳、口語訳】、はずかしめ【新改訳3】

恥をもちとわないで

初出箇所

②ヤコブがエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を侮った。 (創世記25:34)

侮った ⇒ 軽んじた【新共同訳、口語訳】、軽蔑した【新改訳3】

(3)

עָרְוָה (エルヴァー) 【名詞】 裸、恥辱

עָרָה (アーラー) 【動詞】 裸にする、むき出しにする、あばく

エルヴァー

初出箇所

①カナン之父ハムは、父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に告げた。 (創世記9:22)

②父の裸をあらわにすること、すなわちあなたの母の裸をあらわにすることをしてはならない。
彼女はあなたの母である。彼女の裸をあらわにしてはならない。 (レビ記18:7)

父の裸 ⇒ 辱める 母の裸 ⇒ 犯す【新共同訳、口語訳、新改訳3】

③そのように、アッシリアの王はエジプトの捕虜とクシュの捕囚の民を、若い者も年寄りも裸にして、裸足のまま、尻をあらわにして、エジプトの恥をさらしたまま連れて行く。(イザヤ 20:4)

恥をさらしたまま ⇒ 隠しどころをむき出しにしたまま

●**エルヴァー**は「裸」であると同時に「恥辱」です。**エーローム**は「裸」ですが「恥辱」ではありません。

- ・**エーローム** と **エルヴァー** は 同じ「裸」と訳されますが同義ではありません。
- ・**ボーシュ** と **エルヴァー** は 同じ「恥」と訳されますが同義ではありません。

4. ボーシュ と エルヴァー

- ・あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。 (黙示録3：17)

※裸は**エーローム**です。

- ラオデキヤの教会の問題点は自己満足です。「自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もない」と満足しているのです。しかし、偶像に覆われているだけであり、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸なのです。

なぜなら

すべてのものは神の目には**裸**であり、あらわにされているのである (ヘブル4:13)

このことにラオデキヤの教会は気づいていませんでした。

【ヨハネの黙示録3章17,18節】

17あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。

18わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買い、あなたの裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い、目が見えるようになるために目に塗る目薬を買いなさい。

ここで、裸の恥と訳された原語は何でしょう。

裸・・・ () 恥・・・ ()

答えは

裸…エルヴァー

恥…ボーシュ

- 裸 **エーローム** であることに 気づいていない、気づこうとしない自己満足な状態が
裸 = 恥辱 = **エルヴァー** です。

エルヴァーであることに気づこうとしない これが **ボーシュ** です。

ボーシュ → 恥 失望 悲しむ 落胆 恐れ

「みじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸である」ことは**ボーシュ**ではありません。

裸**エーローム**であるからと、**ボーシュ**することはないのです。

それはイエシュアが「貧しい者は幸いです」と言われたように救いがあるからです。

5. 失望から希望へ

【ヨブ記1章2 1節】

- ・そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」

※裸・・・**エーローム**

- すべてを失って裸であっても、恐れることはありません。このヨブの告白の背景には、神こそすべてののはじまり(いのちの源泉)であるという確信、同時に、神である主はどこまでも良い方、常に、良いことしかなさらない方であるというぶれることのない信仰があります。

【詩篇31篇1節】

- ・主よ、私はあなたに身を避けています。私が決して恥を見ないようにしてください。あなたの義によって私を助け出してください。

※恥を見る・・・ポーシュ

- 創世記3章で、罪に落ちたふたりは善悪の知識の木に身を隠しました。自分の力でそこから出てくることはできません。イエシュアの義によってのみ救い出されます。主に身を避けることでしか救いはないのです。

恥を見ない

水源が枯れる → 源泉から水が湧き出る

欠乏 → 充足 恥 → 誉れ 恐れ → 愛 失望 → 希望 悲しみ → 喜び

救いの代価

・ 裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い（黙示録3:18）

● 「白い衣」とは、「義の衣」であり「救いの衣」です。

主が私に救いの衣を着せ、義の上衣をまとわせて（イザヤ61：10） くださいます。

【口語訳】

「白い衣を買い」とは

あなたがたは、代価を払って買い取られたのです（Iコリント 6:20）

代価を払ったのは主であるイエシュアです。十字架のあがないという代価です。主ご自身が代価を払って白い衣を着せてくださるのです。

ベアハート

【ローマ人への手紙13章14節】

主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。

- 初代教会の弟子たちは何も持っていませんでした。裸**エーローム**です。神殿ユダヤ教の神殿が立派な金色で覆われていたのとは対照的です。様々な偶像で覆われて、裸であることに気づいていない神殿ユダヤ教には一番大事なものはありません。

しかし、弟子たちには神のいのちがありました。ですから、弟子たちは恥を見ません。

裸であることに気づくことでイエシュアを着ることができます。裸であることに気づかせてくれるのは、欲望というたましいではなく、いのちの息(霊)です。その霊を与えてくれるのはイエシュアです。

裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

このことばの意味をミドゥラーシュしてたどり着いたのは

イエシュアから目を離さずにいる ことが すべてに満たされる

ということです。

詩篇 23 篇から

主は私の羊飼いです。

私は乏しいことはありません。

לֹא אֶחְסָר

(ロー・エフサール)

「私は乏しいことはない」

たとえ、死の陰の谷を歩むとしても

私はわざわざを恐れません。

あなたが、ともにおられますから。

火曜アシュレークラス 長谷川和美